

2018年6月4日

朝礼の話 (2018年6月)

皆さんお早うございます。気象庁からの梅雨入り発表はまだありませんが、平年では7日あたりが梅雨入りの時期であり、明日あるいは明後日には梅雨入りの発表がされそうです。梅雨入りしますとその後一か月半に亘り雨の日が多く蒸し暑い気候が続きます。但し、梅雨時期とはいえ、太平洋高気圧に覆われ、最高気温が30度以上となる真夏日もあります。好天の日には暑さ対策、熱中症対策が必要になります。雨天の日には梅雨冷えに注意が必要です。湿度の高い気候とともに気温の変化も大きくなり体調を崩し易くなります。体調管理にはいつも以上に注意を払い、元気にこの季節を乗り切ってください。

先月末、イタリアの政局混迷が世界の金融市場を揺らしました。著名投資家のジョージ・ソロス氏は「再び大きな金融危機に向かっている」「EUは存続の危機にある」と警鐘を鳴らしました。先月29日から30日にかけてイタリア国債利回りが急騰（国債価格が下落）したことがきっかけとなり、日米で株価が大きく下落し、ユーロも対ドルで続落し、円はリスク回避の円買いによりユーロ、ドルに対し円高となりました。3月4日に投開票されたイタリア総選挙は、どの陣営も過半数に届かず、EU懐疑派である極右政党「同盟」とポピュリズム（大衆迎合主義）左派政党「五つ星運動」を中心に連立協議を続けてきましたが、5月に入ってもまとまらず、中旬になり、「五つ星運動」と「同盟」が連立政権をつくることで合意し、首相は両党首以外の人物を推薦することとなり、民法学者で政治経験のないジュセッペ・コンテ氏が首相候補に推薦されました。23日夜、マッタレラ大統領は次期首相にコンテ氏を指名し、「五つ星運動」と「同盟」による連立政権が発足する予定でしたが、入閣候補の中でEU懐疑派のサボナ元産業相の入閣を大統領が拒否したため、コンテ氏は組閣断念に追い込まれました。サボナ氏は共通通貨「ユーロ」やEUの基礎となるマーストリヒト条約に反対してきたエコノミストで、イタリアはユーロから離脱すべきだと唱えたこともありました。親EU路線の重要性を説く大統領はサボナ氏起用でEUとの対立や金融市場の混乱が加速する事態を警戒し、サボナ氏の入閣を認めませんでした。大統領は、一旦親EU派のIMF元高官を次期首相候補に指名しましたが、議会多数派の賛同を得られる可能性は低く、議会で不信任となれば、早期の再選挙が濃厚となり政局の混乱が続くことが懸念されました。このような状況で大統領は、焦点となった経済・財務相に経済学者のジョバンニ・トリア氏を起用する閣僚人事を最終的に承認し、コンテ氏を次期首相に任命しました。3月初めの総選挙実施後3ヶ月経ちようやく政治空白に終止符が打たれることになりました。コンテ新首相の政権運営の手腕は未知数であり、政権与党の両党はばらまき型経済政策で合意し、EUが課す財政規律の見直しを求める構えをみせています。ユーロ圏三位の大国にEU懐疑派の政権が生まれれば、EU統合の大きな波乱要因となり、放漫な財政運営に起因して国債の信用問題が起これば、世界の金融市場に与える影響はギリシャ危機とは比較にならないくらい大きなものとなります。欧州発の市場不安要因として注視していく必要があります。

以上